

姫路大学大学院看護学研究科 Newsletter No. 7

Graduate School of Himeji University

Master of Nursing Science
Doctor of Philosophy in Nursing Science

Contents

看護と研究と行動経済学

看護学研究科教授 菅野 夏子

危機下のリーダー

看護学研究科教授 高谷 嘉枝

博士前期課程修了生修士論文タイトル

トピックス

大学院生の声

博士前期課程2年生 川浪 阿紗美

大学院入学試験のお知らせ

看護と研究と行動経済学

看護学研究科教授 菅野 夏子

近年「行動経済学」が、雑誌などでよく取り上げられているのはご存じだろうか？

人間の行動パターン等を経済学的にとらえる考え方は、医療分野だけでなく、教育分野にも取り入れられてきている。医療分野も教育の分野も、個人に対する援助の評価ではなく、科学的根拠に基づく介入の評価を求められるようになった。

医療健康分野にも、この行動経済学の分野が取り入れられてきている。医療行動経済学研究は、「なぜ禁煙に失敗するのか」「ダイエットが成功しないのか」といった予防医療を主要トピックに発展してきた。これには、患者の自律性を尊重したうえで、最適な選択の実行を促す「ナッジ理論」をもとにした介入方法が注目されている。この「ナッジ理論」はノーベル経済学賞を受賞した経済学者リチャード・セイラーが、法学者のキャス・サンステイーンと共に提唱した概念である。行動経済学の知見では、私たちの思考過程は反射的習慣的な自動システム（深く考えない自分）と反省的・理性的な熟慮システム（よく考える自分）からなっており、日常行動の大半は「深く考えない自分」の傾向にあり、「ナッジ」とはこの「深く考えない自分」の習性を利用するか、または「よく考える自分」を目覚めさせる方法¹⁾としている。実は日本においても、この「ナッジ理論」に基づいた事象があふれており、駅のホームのベンチを線路と垂直に設置していること（ホームからの転落事故を防ぐ）や、店内のレジの床に足形を貼って、間隔を開けて並ばせる方法等もこの「ナッジ理論」からきているのである。

これを研究に当てはめれば、研究がはかどるのではないか。これに関しては、私自身実験中（？）であり、本当にはかどるかは不明である。また、普段の自分を見ても「深く考えない自分」の傾向が強すぎており、「よく考える自分」がなかなか目覚めていない状況にある。今回、この原稿を書くにあたり、「実行力」について書いてほしいという依頼であったが、実行できないことが多く、反省が多い。この「ナッジ理論」に基づき、研究だけではなく、実生活にも取り入れ、「実行力」を高めたいものである。

文献

1) 那須耕介, 橋本努: ナッジ!? 自由でおせっかいなりバタリアン・パターナリズム. 勁草書房. 2020.



危機下のリーダー

看護学研究科教授 高谷 嘉枝

1995年1月17日午前5時46分、阪神淡路大震災が発生し、27年たった今も災害の影響を残している。当時私は、臨床現場の看護管理に携わっており、震災当日から救急外来に押し寄せた患者の災害看護活動に関わった。様々なキャリアの看護職が、病棟や外来などで患者や被災患者、救急を訪れる方々や家族に対し臨機応変に創意工夫をこらし看護ケアを行っていた。この中には自身が被災した看護職も含まれていたが、人が人を思いやり、人の助けとなるような活動に精一杯取り組んでいた。私が災害看護学の重要性を再認識したのも、この経験が契機となった。

大規模自然災害に次いで、兵庫県には、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより2020年4月、2021年1月、2021年4月、8月の4回にわたって緊急事態宣言が発出された。多くの尊い生命が奪われたが、新型コロナウイルス感染症は2年以上が経過した今も未だ収束に至っていない。人々は、社会経済活動をはじめ医療・健康サービスなどに対する不安を抱えて日々を生活している。

私の上記の経験を振り返って、危機的状況下において困難を乗り越え組織を牽引するリーダーについて考えてみたい。

リーダーは、変わってゆく予測できない状況下で迅速かつ即断即決での行動が求められる。危機に晒されている中、どれくらい悲惨な現状があっても冷静に事実を見つめ、的確に計画し遂行することは、基本的には平時の仕事を行うことと殆ど同じであると思う。とりわけ大切なのは根拠をもって論理的に計画などを作りあげていく点にあり、日常業務において研鑽を重ねる必要がある。加えてリーダーは、共感、信頼、気遣い、思いやりなどに心を砕くことも忘れてならない。

看護職は、人を世話することを専門とするが、厳しい経験を通していかに看護を深く再考したのだろうか。未曾有の危機後の新たな看護の再構築はどのようなものになるのだろうか。これからも大規模な災害が降りかかってくるだろう。看護のリーダーがこれまでとってきた管理のあり方は、パンデミック以降変化を求められるようになっている。危機に適切に対処できる看護のリーダーの育成、災害看護学・感染看護学のさらなる確立および発展に期待を寄せたい。

《 博士前期課程修了生の修士論文タイトル 》

博士前期課程 公開研究成果発表会が2022年2月26日（土）に開催し、2名の学生が発表し修了しました。

- ・ 軽度認知障害がみられる軽度要介護者への訪問看護導入に対する介護支援専門員の認識
— 介護職と看護職の資格の違いについて — （渡邊 真美）
- ・ 勤務助産師が体験した初めて親になる夫婦のペアレンティングへの思い（永井 たつ代）

《 トピックス 》

第3回姫路大学大学院FD研修会

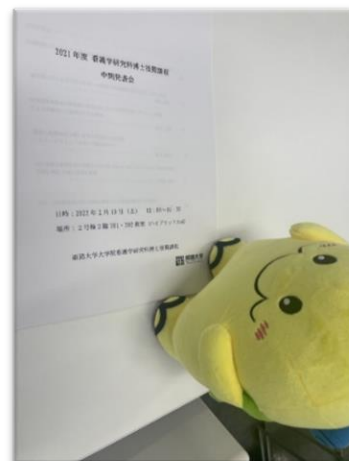
2月5日（土）「専門職者としてのレベルアップを引き出す大学院生教育 ―評価ツール検証・尺度開発の研究指導を例に―」というテーマでHYFLEX方式により開催し40名の教員と大学院生が参加しました。

尺度開発の研究方法だけでなく、教員の立場から学生にどのように関われば効果的か、また先行研究によって概念を明らかにしてから研究に取り組むことの重要性について、アクティブラーニングを取り入れながらの分かりやすい講義となり、とても有意義な学びとなりました。



博士後期課程中間発表会の開催

博士後期課程の中間発表会が2月19日（土）13時から開催され、2・3年次6名が遠隔（ハイブリッド）で発表しました。発表後、専攻長から、コロナ禍で研究が思ったように進んでいないのではと心配をしていましたが、皆様の努力が着実に実を結んでいっているのが伝わり有意義な時間が共有できました。引き続き博士論文の完成に向けて取組んでほしい、と挨拶がありました。また、指導教員や院生同士からも多くのエールが送られました。



博士前期課程公開研究成果発表会の開催

博士前期課程の公開研究成果発表会が2月26日（土）10時30分から開催され、修了生2名が発表しました。それぞれの院生が真摯に研究に取り組んだ成果が伝わってくる発表会となりました。最後に、専攻長から大学院で学んだ多くのことを実際の現場で活かしてほしいとの励ましの声がありました。



令和3年度姫路大学大学院個別授与

令和3年度姫路大学の学位授与式終了後、大学院生の個別授与をいたしました。

大学院教員から修了生に向けてはなむけの言葉がおくられ、修了生から「予測が困難な中、今できることは何かを問いながら大学院で学んだことを糧にして社会に貢献できる人材となり続けるよう努力していきます」という言葉がありました。



令和4年度姫路大学大学院入学式

令和4年度大学院の入学式が挙行されました。今年度は、博士前期課程3名、博士後期課程1名の学生が入学し、博士後期課程の学生が入学式の宣誓をいたしました。コロナ禍のなか、学内関係者だけの規模を縮小した入学式となりました。対面授業、遠隔授業を駆使しながら学生の要望に合わせ授業を実施していきます。



博士前期課程中間発表会の開催

5月14日（土）13時から15時25分まで看護学研究科博士前期課程6名による中間発表会が開催されました。対面と遠隔のハイブリッドで実施し、40名の学生と教員が参加しました。講評では第1回目の発表よりブラッシュアップされ、研究内容がわかりやすくなった。教員、学生の質問にも自分の言葉で答えることができていた。次回の第3回目の発表では自分で選んだ分析方法で、自分の目的とした内容が明らかになっていければよい。



そのまま継続して頑張してほしい、という応援メッセージがありました。

《 大学院生の声 》

川浪 阿紗美さん

(博士前期課程2年生 成人・高齢者看護学分野)

現在、福岡大学筑紫病院に勤務しており、2021年4月に姫路大学大学院博士前期課程に社会人学生として入学する。



大学院に行こうと思ったきっかけは？大学院の授業はどうですか？

私は、看護師として20年、看護管理者として3年が経ち、看護や管理を実践していく上で、より知識やスキルを身につけたいと思い大学院への入学を決めました。現在、看護管理者として、病院のスタッフと接する中で、「看護とは何か？」ということ、スタッフと共に日々考える状況にあり、そのためには、しっかりとした知識が必要になってきます。知識を得るには本を読むことだけでは、なかなか難しいと思っており、以前から大学院で「看護とは何か？」を突き詰めたいと考えていました。

また、何より、オンラインで授業が受けられることが一番の要因でした。働きながら、大学院に行けることができるとは、大変ありがたかったです。

授業については、看護理論の授業の中で、今、現場で行っている看護実践が正しいかどうか、理論に基づいて分析し、意見交換をするという授業でした。私が現場で実践していることが、きちんと理論に基づいて実践できているということがわかり、間違いでなかったという自信にもつながりました。

看護研究の授業では、改めて研究のプロセスを学び、今までより研究に取り組むことが楽しくなりました。文献検討の仕方から研究のプロセスを大学院では具体的に教えていただき、看護研究を行うには、まずは自分が疑問に思っていることが、どこまで明らかにされているか、しっかりと過去の文献を調べることから始めることが大切であるとわかりました。

どの先生の授業も対話を大切にされており、生徒同士での意見交換や先生方の経験談をきくことで、新たな気づきを得ることができ、学びを現場に生かせる授業ばかりでした。

遠隔授業の方法は、良かったことばかりです。仕事をしながら仕事が終わって、どこかに移動して授業を受けることは難しいですが、遠隔のため仕事が終わって、そのまま授業を受けることができたことは、負担なく学びつづけることができました。また、大学院の先生は、勤務に合せて授業日を調整してくれました。本当に感謝しかありません。

現在は、指導教員と2週間に1度は研究の進捗についてリモートで指導を受けています。

修士論文はインタビューの内容から分析していくことになりましたが、インタビューを7月いっぱい終了し、8月からまとめていくように計画しています。

大学院で学ぶことは、看護師という専門職業人としての私の存在意義を強め、日々の現場でやりがいを持ち、働くことができる「今」を与えてくれています。大学院の先生方をはじめ、生徒の方々の出会いは私の看護師人生の中でのとても貴重な機会でした。

修士のディプロマポリシー（学位授与の方針）1）人々の健康課題について、理論をもとに科学的に探究でき、研究に関する基礎的能力を身につけている。2）人間に対する深い洞察力と高い倫理観をもち、自己の専門分野を活かし、人々の健康改善・増進に寄与する能力を身につけている。3）あらゆる健康レベルにある人々を包括的に捉え、保健・医療・福祉の場においてリーダーシップを発揮し、高度な看護実践ができる能力を身につけている。このことは、様々な授業で学んできたことです。

《 大学院入学試験のお知らせ 》

博士前期課程では、人間に対する深い洞察力と高い倫理観をもち看護の理論と科学的な根拠に基づき、人々の生活や看護の場において教育力、指導力、研究能力を発揮できるすぐれた看護実践専門職業人を育成しております。また、博士後期課程では、人間に関する高い学識をもち人々の健康と生活の質の向上を目指した支援を体系的・科学的に探究し、独創性のある研究を自立して行うことができる教育・研究者の育成を目指しています。

下記の日程で博士前期課程・博士後期課程の入学試験を実施しますので、姫路大学大学院入学センター（TEL:079-247-7306 E-Mail:nyushi@koutoku.ac.jp）までお問合せください。随時個別相談を受け付けております。

働きながら学びやすいようにほとんどの講義はインターネットを利用して自宅や職場で受講することができます。また、長期履修制度もあり多くの大学院生が利用しています。

* 出願資格認定審査

I 期 2022 年 8 月 1 日（月）～ 2022 年 8 月 16 日（火）

II 期 2022 年 11 月 22 日（火）～ 2022 年 12 月 7 日（水）

III 期 2022 年 12 月 8 日（木）～ 2023 年 1 月 19 日（木）

* 出願期間

I 期 2022 年 8 月 17 日（水）～ 2022 年 9 月 8 日（木）

II 期 2022 年 12 月 8 日（木）～ 2023 年 1 月 19 日（木）

III 期 2023 年 1 月 10 日（火）～ 2023 年 2 月 1 日（水）

* 試験日

I 期 2022 年 9 月 10 日（土）

II 期 2023 年 1 月 29 日（日）

III 期 2023 年 2 月 11 日（土）

* 会 場：姫路大学（兵庫県姫路市大塩町 2042 番 2）

* 試験科目

博士前期課程

社会人選抜入学試験 小論文、面接

一般選抜入学試験 英語、看護専門科目、面接

博士後期課程

一般選抜入学試験 小論文、英語、面接

編集後記

姫路大学大学院看護学研究科では、新型コロナウイルス感染症が終息しても、今後もほとんどの講義は、インターネットを利用して自宅や職場で受講できるようにしております。また講義は、平日の夜間や土曜日などに開講しており、日程は教員と相談のうえ決めることができます。1年に数回開催している研究の中間発表会では、対面、オンラインを併用して実施しています。



さて、日本の大学は、対面授業となりキャンパス内は活気が戻ってきました。課外活動も感染に気を付けながら活動をしています。社会は、訪日外国人観光客の受け入れを6月10日から再開すると表明し、インバウンドの本格的な再開につなげていくこととなります。つい、この前までは、トップでにぎわっていた新型コロナウイルス感染症関連のニュースは少なくなり、以前ほど気にならなくなってきたように思います。しかし、ある調査によると、コロナウイルスに感染した人で後遺症が疑われる人は、全体の34%にのぼり苦しんでいる人も少なくないようです。

これからは、さまざまな情報をもとにして自分自身が選択して行動をすることとなります。

大学院ではNewsletterを引き続き発行し、教育・研究者や地域の人々に大学院を身近に感じていただきたいと考えております。次号は2023年1月頃にお届けできる予定です。

大学院 HP



Instagram



姫路大学大学院看護学研究科 Newsletter

2022年6月30日発行

■編集・発行

姫路大学大学院看護学研究科

〒671-0101 兵庫県姫路市大塩町 2042 番 2

TEL : 079-247-7301

E-mail : daigakuin@koutoku.ac.jp



 **姫路大学**
Himeji University